

## 令和4年度～令和6年度 第3回山梨県図書館協議会 会議録

1 日 時 令和6年2月21日（水） 午前10時30分～正午

2 場 所 県立図書館 2階 多目的ホール

3 出席者 (敬称略)

(委員) 橋田浩、篠原弘照、須藤令子、塚田純子、中澤まゆみ、  
中山吉幸、長谷川千秋、保坂なおみ、山縣裕二、吉井潤

(事務局) 県立図書館：小林副館長、土橋次長、飯沼司書幹、古谷総務企画課長、  
三枝資料情報課長、市川サービス課長

(生涯学習課) 佐久間技師

(指定管理者) 滝川支配人

4 会議に付した議案

(1) 県立図書館の運営状況について

(2) 図書館の効果的な広報について

(3) その他

事務局 議長は、「山梨県附属機関の設置に関する条例」第6条第1項の規程により長谷川会長  
にお願いします。

議長 議題(1)(2)について事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料1・2について説明。)

議長 事務局から説明があった。説明について委員からそれぞれの立場から個人として団体  
として意見や質問をお願いします。

委員 いろいろな事業をしていて、人手が限られている中でよく頑張っていると思う。イベ  
ントや事業を実施する際に、参加者に簡単なアンケートを取ることがあるかと思うが、  
イベントを知った媒体や手段についてたずねている項目があるか。私が図書館の現場に  
いた頃は、SNSが今ほど普及していなかったため、図書館のホームページを見たとい  
うのが多かった。次に、広報と関係するが、山梨県立図書館のホームページを授業中  
によく学生に紹介するが、少し探しにくいとすることがある。特に横断検索で所蔵館を  
探す際に、メニューが画面の左側に小さくあるためわかりにくい。ホームページはトッ  
プページが前から変わっていないように思えるが、リニューアルの計画はあるか。

議長 事務局からお願いします。

事務局 アンケートについて回答する。各イベントなどでアンケートを取っている。11月に行った宮部みゆき氏と金田一館長とのトークショーでは、このイベントをどのような方法で知ったかという項目への回答者144名のうち、「ちらしを見た」が60人(42%)、「図書館のホームページ、SNSを見た」が30人(21%)、「新聞・広報誌を見た」が19人(13%)、「家族・知人に誘われた」が17人(12%)、「図書館で聞いた」が12人(8%)、その他である。

事務局 続いて、ホームページの質問に回答する。来年度に図書館システムの更新を予定しており、それに併せて現在のホームページも見直す計画である。

議長 他にご意見やご質問があるか。

委員 感想になるが、これまでの2回の議論を踏まえて、いろいろな工夫をされていて、積極的に取り組まれて、よく頑張っていると思う。年末に本屋でみかけた『「若者の読書離れ」というウソ』という本の内容で気になったのが、小中高の朝の読書活動でここ40年ぐらい読書率が上昇している一方で、大学や一般は全然変わらず、2人に1人も本を読まない実態がある。(図書館の)このような取り組みはとてもいいが、所詮、頑張っても半分には届かないと思えば、もう少し肩の力を抜いて柔軟にアプローチすることも大切かと思う。例えば、司書は得意な分野があるはずなので、個性を活かして名前を出してアプローチすることも一つの方法だと思う。また、利用者アンケートを活用しつつ、変化球を投じて新しいアイデアを試してみることもよいかと思う。

事務局 大変元気づけられるご意見をいただき感謝する。効果的な広報を皆さんの意見をいただきながら、「いいところは活かしていく。できることは、やってみる。」という考えで今年度やってきた。その中で、ちょっとした手応えもあったり、頑張っても効果が感じられないこともあったが、それを踏まえて、何か面白いこととか、司書としてお勧めできるものの紹介でもよいのではないかとという貴重なご意見をいただいたと思う。

議長 他にはいかがか。

委員 贈りたい本大賞第10回のポスターのイラストは職員が描いたのか。

事務局 今年度のポスターは、左下にクレジットがあるが、担当職員の知り合いの学生さんが職員とのつながりの中で描いてくれ、最終的なレイアウトなどは職員が行った。

委員 確かに、いろいろな興味を持つ人々に関わってもらうことで、ポスターのイメージが変わり、魅力的なものになると思う。また、担当者がポスターやちらしに興味のある人の意見を取り入れながら作ることで、さらに魅力的なものができるのではないかと思う。

議長 私もデザインが本当に素敵だと思った。例えば、駿台甲府高校の美術デザイン科や山梨大学の美術教育のコースがあるので、困ったときにはそういったところに相談をして連携することで、それ自体も広報になるし、高校生や大学生が本を読もうという気持ちに変わるといいと思った。他にいかがか。

委員 前回と同じような内容かもしれないが、広報については、基本的にはポスターとか紙の媒体をメインで行っていて、SNS等も利用して工夫しているようだが、調べてみると、ホームページ、Xが頻繁に投稿されていることと、Facebookのページを見ると3つ出てきてどれが本当のアカウントなのか、「かいぶらり」と入っているものと、ただ「県立図書館」というのと、どれを見たらいいのかが分からないので、一度精査した方がいい。インスタグラムを調べると利用者が投稿したであろう画像がヒットするので公式を持っていないのかと感じた。私も自分のところで全部やっているが、それぞれの閲覧者が全く違う。前回、若者に普及するというので、インスタグラムが一番若い女性に特に閲覧されるので、できるのであればやった方がいいと発言した。大学生や一般人も含めて若い人たちにもう少し読書を普及するというのを考えるとインスタグラムをやった方がいいと考える。Xについては、結構まじめな感じのしっかりした投稿になっている。Xは文字数も短くてカジュアルな投稿にした方が受け入れられやすく、公式的な内容はFacebookやホームページでアップするのが効果的だということなので、少し投稿の内容を変えていくというのもひとつの方法と感じた。

議長 事務局からなにかあればお願いします。

事務局 当館で行っているのは、ホームページとX、Facebookで、インスタグラムはやっていない。Xは、各担当でいろいろなイベントがあるときはまめに更新している。ホームページは公式な告知や利用案内を上げている。ご指摘いただいたように、非常にまじめに取り組んでおり、多少固いところが反省点である。若い職員もいるので、柔軟な内容にしていけたら少し変わってくるのかと感じる。

議長 他にいかがか。

委員 インスタグラムが若い人への広報に効果的ということで、自分たちの法人でも試し始めたところだが、ちらしなどを頻繁に投稿するだけでもそれなりの宣伝効果があるように感じている。文章もあまり必要ないので、難しく考えずに図書館のイベント紹介などにも使ってみるのもよいかと思う。

また、X、ブログ、noteなどで図書館員のつぶやきや仕事の日常、本の感想など、働いている人の顔が少しみえるものがあると、より図書館に対して親近感がわくと思う。

話は変わるが、娘が東京の高齢者関係の研究所で、図書館との連携で年配の方向けの読み聞かせ養成講座を行なって、年配の方の認知機能がどのくらい改善されるかを研究しているが、その結果、読み聞かせが認知機能向上に役立つだけでなく、活動するグループができることにより高齢者がLINEグループなどのSNSを使うようになり、お互いに関係性を作り、さらに活性化が促進されていると聞いている。図書館でも連続講座や養成講座を行っているが、そこに参加し話を聞いて解散ではなく、図書館という場所を通じて参加者がつながりを継続していくことで、高齢者の生きがいや友達づくり、さらには、若い人にも年配の人にとっても第三の居場所作りに発展する可能性がある。このような仕掛けを図書館で実現できれば図書館の存在意義がさらに広がると思う。

事務局 年配の方向けの読み聞かせは、かなり前から実施されていることで、当館でも、読み聞かせに使いたいという方から紙芝居や絵本がないか問い合わせがあり、紹介している。また、講座に参加しただけで終わらず、そこから新たなつながりや発展につながるというのご意見をいただいた。居場所づくりということも、昨今では図書館で話題になっているので、新しい可能性として発展させていければと思う。

議長 SNSに関することや別のことでよいが、他にいかがか。

委員 山梨県社会福祉協議会に介護総合支援センターが昨年の4月から設立され、先ほど委員が発言した認知症予防のための読み聞かせについて、研修のメニューの中に入れられるかもしれないと思った。予算作成時期のため、担当に話をしたいと思う。

議長 この協議会でつながりが実現できることを期待する。他にいかがか。今回の取り組み事例をみると、支援学校や中高生への働きかけがあるので、学校関係からご意見あればお願いしたい。

委員 小中学校にいますが、SNS関係の話を聞いて、興味を持っている方は、SNSで図書館の情報を見らと思うが、全く興味がない子たちへの工夫も考えたい。また、県関係では科学館や文学館からは、サイズの大きなポスターで案内を受け取っている。図書館のものを掲示したことはないと思う。子どもたちが壁を見たときに、図書館に行ってみようと思うようなポスター等があればと思う。見て話題を持たせるような仕掛けができればいい。様々な取組は十分にやっているの、その上でお願いすることはない。

議長 かなりいろいろなことをされているので、ここから更に取り組むのは大変だが、話題がある場合は、学校に掲示をお願いするという方法もあると思う。

委員 高等学校では、年度初めの図書館部会に副館長を招いて、各学校の代表者に県立図書館の案内をいただいている。回数は多くないと思うが、引き続き案内していきたいと思っている。高校図書館の司書は半数以下が県職員で、県立図書館司書の人事交流先となっている。学校数の減少や学校規模の縮小に伴い、すべての学校に県職員の司書が配置されていない状況があり、フォローが必要である。図書館司書部会の中で、県職員を中心につながりをもてればと思う。

事務局 今年度、小中高校の学校図書館大会にて学校支援セットの宣伝や贈りたい本大賞の応募を呼びかける機会を得たこと、折に触れて小中高校生にちらしを配布させてもらい、非常にありがたい。学校で教頭をしていたころは、大量の様々なちらしが毎日のように届くので、受ける方は、どう周知するか大変であると理解しているが、差し上げる者としては、壁や通路に貼っていただけのことに感謝している。今年度、学校支援セットに非常に多く申込みがあった。コロナ前は年に9件程度だったのが、今年度は30件に及ぶ申込みをいただいた。内容はSDGsやLGBTQなどの新しいセットを担当司書が工夫して作っている。贈りたい本大賞の応募方法は、これまで紙ベースやメールベースであるが、ウェブフォームで応募できるととても有効だと思っている。一人一台パソコンが、小中学校は既に、高校は来年度で全学年そろそろ。ウェブフォームで推薦文150字送ってもらい、日本全国津々浦々どこからも応募できるよう検討中である。ご応募をお待ちしている。

議長 学校支援セットの貸出しが増加しており、調べ学習の支援や先生方の負担軽減につながっていると感じる。関連して、山梨大学には教職大学院があり、県内の現職の先生方が14名、1年間大学で学び、2年目は勤務校で実習する。1年目は比較的考えるゆとりがあるので、学校支援セットを知らせることで、教科横断的な科目もあるため、実際手にして、それを使ってどんな授業ができるか考えることもできそうである。窓口になるので使っていただきたい。また、資料2の6番の電子書籍サイトの特集紹介にあった

「自殺予防に関すること」について、大学生はこういうことに悩むことが多く、これに関する部署は大変忙しくなっている。カウンセリングも多くなっているためここも連携できる。この資料は持って行かせるといいと思う。ちらしができれば送っていただきたい。電子媒体でもいただければ流すし、必要なところに持って行くこともできるかと思う。都留文や県立大学など大学関係の連携もできるかもしれないと感じた。また、大学生の読書離れを身に染みて感じているため、興味のない人をどう本に結びつけていくのか、なかなか難しいが、大学生も生きていく中で少し考えたりするような瞬間があり、そんなときに本が救いになることもあるので、なんとなくどこか彼らの視野に入るようにしてあげることが大事だと皆さんの発言から感じた。副会長いかがか。

委員　とてもたくさんの事業や研修をしており、南アルプス市の司書も、司書のスキルアップにつながるようできる限り参加している。当館も中高生や大学生の利用が少ない状況にあり、毎年の課題になっているので、皆さんのご意見が参考になった。先ほど、参加者とのつながりの話があったが、南アルプス市でボランティアの養成講座を毎年、朗読入門講座と読み聞かせ講座を交代で行っており、今までに参加した人が朗読グループを作ったり、地域の朗読グループに入って、つながっていくという形もあった。様々な連携が図書館のPRにつながっていると感じながら聞いていた。

議長　連携はとても大事であると日々感じている。個々の人はとても頑張っているが、連携することでエネルギーを共有でき、助け合えることがある。小さな県なので、連携することが非常に大事になってくると思う。他にいかがか。

委員　利用者としての感想であるが、図書館に定期的に来館するのが楽しいと思っている。来るたびに展示が変わっているのを見ているだけでも楽しい時間が過ごせて、居場所としても楽しいところだと感じている。先ほどのポスターの件であるが、手間になるかもしれないが募集してはと思ったが、今日説明を聞いていて、つながりの中でイラストを依頼することもできると思った。また、地区の自治会で高齢者の集まりを月に1回ぐらい行っている。そこで例えば、手芸教室や踊りができる人を呼んだりしているが、一度大きな紙芝居をしてもらったこともあった。先ほど話を聞いていて、読書や読み聞かせに関わって、どなたかに来てやっていただかなくても、集まる人たちの中できる人がいればそれはそれで楽しいと思う。例えばある程度年配の人でも講師になれるような読み聞かせ講座があれば、それも面白いと思った。また、放送ライブラリのサービスを是非利用してみたいと思った。知るということが大切だということを感じた。

議長

今回、効果的な広報のための取組事例について、多分ここにいる委員全員が大変驚きと感動を共有していると思う。ぜひそれを職員に伝えたいと思う。大変驚いたのが、各課からさまざまな取組が出てきたことである。こういう取組をすると言っても各課が動くということがなかなかないと思われるので、事務局の働きかけが成果をもたらしたと感じている。取組自体も明確に目的を定め、どんなターゲットで、だからどんな手段で、そして工夫した点、利用者の反応はどうだったか、どんな変化が得られたか、今後どんな効果が期待されるかという視点も明確になっているため、効果的に動いていくと感じた。心配するのは、頑張りすぎて疲れることなので、職員の雰囲気を見ていただきたいと思う。非常によい雰囲気であれば止めてしまうのはもったいないので、このままずっと頑張っていくことでもよいと思う。一方、少し疲れてきているのであれば、少し見直すとか、課題を整理して取捨選択をしてもよいのではないか。一人一人の職員が、取組を育てていくということだと思うので、一人一人がどう考えているのかが大事だと思う。ぜひ「楽しむ」ことをキーワードに、手応えのあるものを伸ばしていくことをお勧めする。それから、ユーザーの反応が見えるとうれしいので、どこかで反応が見えるような、反応が伝わるような仕組みも考えてほしいと思う。今日もかなりこれというのがあったが、「りんごの棚」の障害のある方への様々な支援も目立っていた。これはと思うものは、プレスリリースや報道機関に図書館から動くテレビなどで扱ってもらえるので、非常によい循環ができると思う。それでは、この議題については、よろしいか。

(了解)

様々な貴重なご意見をいただいた。これでこの協議を終了させていただく。

次の議事(3)その他、委員からなにかあるか。

(特になし)

それでは、議事については以上で終了とする。議長の任を解かせていただく。ご協力に感謝する。